

第4回デジタル化検討会 議事メモ

令和7年11月18日(火)

開会、接続確認、議題の説明 13:30~13:45

検証フェーズ1結果報告 13:45~14:10

検証フェーズ2に向けた説明 14:10~14:20

「重層的支援体制整備事業に係るデジタル化検討会4」により説明

意見交換 14:20~14:45

議題

1. 検証フェーズ1（検討会①~③、検証1回目）の結果の報告について

人材育成機能のコンセプトについて、構成員の考えに沿ったものとなっているか確認いただいた。

人材育成機能を検討するにあたり改めて重要なポイントや追加の意見をいただいた。

2. 検証フェーズ2（検証2回目）に向けた計画について

検証2回目の実施内容を説明し、検証2回目の内容や改良方針について、アドバイスや意見をいただいた。

・ 発言者

検討会での意見が反映され、システムが出来ていくのを楽しみにしている。行政は異動が多いので、過去の類似事例をAIが出してくれると有意義に使えると思う。過去の類似事例には個人情報が含まれるので、システムの安全性を示していただければ、今後セキュリティ部門とも調整しやすいと思った。

・ 発言者

県と日立に直接来てもらい、システムを実際に触りながら意見を申し上げた。その点も踏まえてもらえているので良いと思う。個人情報については自分も気になっている。別件だが、個人情報がネックになって参加できなかったシステムがあったので、個人情報を気にしながら進めていく必要があると思っている。

・ 発言者

全ての検討会に参加しており、昨年度に引き続き有意義な内容であった。ユースケースAは、支援関係機関等が把握している事案状況を引き出すための質問観点のアイデア出しのサポートということで、内容については検討会で見たものに類似すると思うが、AIが答えを出すのではなく、使用者にどう気づきを与えるかという点は、運用する中で気づいていければと思う。議題2については、現時点で意見はない。

・ 発言者

検討会で見たユースケースは、職員にとってどれも助かると感じつつ、ユースケースAに焦点を当てていくことについて、1つに決めるのは悩ましかったとお察しする。その中でも、使用者に気づきを与えるということに焦点を当てるのは、新人が独り立ちするのを助けるのに、良いコンセプトだと思う。

・ 発言者

ユースケースAとユースケースDの説明があったが、今まで人がやっていたことがAIに代わり、人が入る余地をどう残すかという課題を感じた。人材育成においても、考える力を育むために、人が考える余地を残す等、いかに協働していくかと感じた。

一点気になったのは、ユースケースAの説明の中で、課内共有の時間が短縮される、とあったが、課内共有することのコミュニケーションの大切さについては、人が入り込む余地として、主張しておきたいと思った。

・ 発言者

検討会をきっかけにAIを試すようになり、事務の効率面では素晴らしいと感じているが、一方で、自分で考えなくならないように、という注意点は気にしている。人が考える余地を残してほしいという意見は大事だと思った。

・ 発言者

多くの意見が出されたが、整理されていてとても分かりやすかった。ユースケースAから取り掛かるということで、重要なユースケース案と思っていたため、採用されてよかった。考える力を育成するのは、相談対応をする中で重要な点と思うので、人材育成に活かされるとよい。

・ 発言者

これまでの検討会で、求められる資質について意見を出したとき、経験が長ければいいという訳ではないと言ったが、一方で多機関協働事業では、経験やスキルも必要だと思っており、足りないところは補っていく必要がある。難しい相談が来るのが多機関協働事業なので、自信を持って相談を受けるには、経験を積むしかないと思っているため、それを補うようなものになるといいと思った。

・ 発言者

検証フェーズ1では、検討した内容を加味してコンセプトをまとめていただいているので、内容に問題ないと思った。検証フェーズ2について、特に意見はないが、実際にシステムが出来たとき、多機関協働事業者が使えるタイミングを見通せると、利用が広がっていくかと思った。

・ 発言者

このシステムで、深掘りのポイントや、他の機関とうまく連携するための視点が提供されるようになるといいと思って聞いていた。午前中にも AI を活用したシステムの研修会があったが、便利なものがあると頼ってしまい、自分で考えなくなると怖いと、経験の浅いスタッフが発言していたので、今回導き出された方向性が、考えるためのヒントを提供するというのが良いと思った。

・ 発言者

「新人がどう考えればいいかわからない」というところが出発点であり、便利な機能があると使い慣れてしまい、自分で考えなくなる、というのが諸刃の剣だと感じた。

多角的な視点のためのアイデア出しのサポートも、使う側が自分の中でどう積み上げていくのか、というヒントをシステムからもらえたり、自分の中になかった視点や、アイデアが出てきた理由を解説してもらえると、システムの機能にプラスして、人が行うこともあると感じた。

・ 発言者

実際に使ってみた感覚、例えば情報が出てくるスピードや量なども、自分たちに影響を与えるという意見があった。身体感覚も大事であり、圧を感じるため、システムを作り込みすぎないことが重要と感じた。効率的なのは大事だが、一方で言葉をまとめすぎて、自分たちの言葉が奪われてしまったり、テキストベースに代わることで失われることもあるかと思った。相談支援はあくまで対面の言葉のやり取りであるため、現場の感覚とシステムが乖離しない工夫を、常に考えていく必要があると思った。

・ 発言者

相談記録の作成に追われて大変ということで、AI を利用しているが、導入して1年たったが、利用がそこまで進んでいない自治体もあるようで、利用場面を具体的に想定しないと、日々の業務に追われる中で使われなくなってしまう。特に経験の浅い職員はそうであるため、使用場面も検討していければと思った。

閉会（検討会終了）